

元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯

女性の解放と
恒久平和のために
彼女は真摯に生きた

企画 平塚らいてうの記録映画をつくる会
製作 青木生子
演出 羽田澄子



青木生子



自由学園100周年作品

協力	日本女子大学	撮影	宗田喜久松
	大月書店	録音	滝澤修
	毎日新聞社	美術	星埜恵子
	朝日新聞社	照明	渡辺勝利
	読売新聞社	音楽	湯浅譲二
	ZTV	デザイン	朝倉 摂
	岩波ホール	語り	豊多道枝
		解説	高橋美紀子

Satoru



平塚らいてう記念碑の前で、右前から瀬戸内寂聴、榎田ふき、青木生子、小林登美枝の各氏(1998年5月23日、神奈川県茅ヶ崎市)



青鞥社の人々(1912年)、左から3人が平塚らいてう

女性よ！すべての女性よ！ いざ、らいてうとともに——

戦争という大量殺戮に明け暮れた20世紀は、一方では世界的に人権運動がたかまり、女性人間として生きようと自覚した世紀でもありました。日本においてもすでに1911年、女性だけの手による文芸誌『青鞥』が発刊され、「元始、女性は太陽であった」と、25歳の平塚らいてうは晴れやかな人間宣言を行っています。

戦後のらいてうと歩みを共にした榎田ふき(故人)と小林登美枝両氏の提唱を受けて、記録映画「平塚らいてうの生涯」を製作する委員会が組織され、製作資金を広く全国に呼びかけることになりました。監督にはドキュメンタリー映画の第一人者、羽田澄子さんをお願いしました。動くらいてうのフィルムがわずか14秒、という困難な条件のなか、女性の解放と世界の恒久平和のために真摯に生きてらいてうの生涯を、羽田さんは、まるでらいてうに会っているかのような映像に完成させました。

これは、20世紀から21世紀への大きな贈物です。この上映運動に皆さまの温かく力強いご声援を心よりお願い申し上げます。

平塚らいてう略歴



1886(明治19)年2月10日東京に生まれる。本名は明(はる)、日本女子大家政学部卒業。1908年森田草平と塩原事件を起こす。1911年『青鞥』を創刊し「元始、女性は太陽であった」を発表。1914年奥村博と共同生活に入る。与謝野晶子らとの母性保護論争のあと、1919年日本で最初の女性運動団体、新婦人協会を結成、女性を政治から排除する治安警察法第五条の改正に成功し、婦選運動への道を開く。昭和初期には居住地成城で消費組合をつくり組合長となる。1942年茨城県戸井に疎開し農耕生活をする。敗戦後、男女同権、戦争放棄の新憲法と民法の「家」制度廃止を共感をもって受けとめる。1950年講和条約締結のまえ「非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」を起草し、野上彌生子らとダグラス国務省顧問に提出する。1953年日本婦人団体連合会初代会長に、また国際民主婦人連盟副会長に就任する。終生、女性の権利、平和のために発言しつづけた。1971(昭和46)年5月24日85歳で永眠。

女同権、戦争放棄の新憲法と民法の「家」制度廃止を共感をもって受けとめる。1950年講和条約締結のまえ「非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」を起草し、野上彌生子らとダグラス国務省顧問に提出する。1953年日本婦人団体連合会初代会長に、また国際民主婦人連盟副会長に就任する。終生、女性の権利、平和のために発言しつづけた。1971(昭和46)年5月24日85歳で永眠。

企画 平塚らいてうの記録映画をつくる会
 青木生子 一番ヶ瀬康子 井上美代 落合恵子 折井美耶子 大竹洋子 金平輝子 河村玲子
 木村康子 榎田ふき 呉禮子 高良留美子 小林登美枝 小林明子 齋藤合子 瀬戸内寂聴
 高野悦子 徳末愛子 富永和重 永井路子 中島邦 宮本美沙子 山田よし恵 脇坂玲子

元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯

製作 青木生子 自由工房 2001年作品
 演出 羽田澄子 16mm / 上映時間 2時間 20分

個の自覚なくして真の人間革命、女性解放はないという考えで、自己の内面を鍛えあげ、強い信念をもって、行動へまっすぐつなげていったらいてう。「真正の人」(『青鞥』創刊の辞)としての生き方に、彼女の魅力を感じます。

青木生子(日本女子大学元学長)

自己の思想を、実生活の上で偽りなく生ききったひと、平塚らいてうの真実に迫るドキュメンタリー。女性解放、世界平和達成の炬火のもと、「私は永遠に失望しない」と、未来に期待をこめた在りし日のらいてうと、向き合う思いです。

小林登美枝(「平塚らいてう」の記録映画をつくる会会長)

「平塚らいてう」の映画と私 羽田澄子

誰でも知っているようで、詳しくは知られていない「平塚らいてう」。しかし、その名をきくと、すべての女性の心に灯りがともる。何故なのか。いったい平塚らいてうとは、どんな人だったのか。そんな私自身ももっていた疑問に応え、私自身が感じとったらいてうを表現しようとした。

彼女は多くの業績を残している。そのすべてに触れることは不可能なことだった。しかし、彼女の魂の核心はとらえたいと願った。それが出来たかどうか。

彼女は青春時代に禅によって生きる道を拓いた。これは彼女の生涯をつらぬく大切な要素である。なにものにもとられず、あらゆることを正確に感じ、判断できる自我を自らのものにしてはいる。私はこの点に注目した。また、彼女の行動を理解するには、その時代を知らねばならない。その点にも可能なかぎり、配慮した。波瀾にとんだ日本の近現代の歴史は、その一部を私も体験している。

らいてうの想いと重なる時代に生きられたのは幸いなことであった。らいてうの存在を身近かに感じてもらえれば、と願っている。

協力＝日本女子大学、日本女子大学成瀬記念館、社団法人桜楓会、平塚らいてうの会、日本婦人団体連合会、新日本婦人の会、日本母親大会、婦人民主クラブ(再建)、財団法人市川房枝記念会、山本安英の会記念基金、お茶の水女子大学、主婦連合会、茅ヶ崎「らいてう」の記念碑を建てる会、財団法人エレンケイ記念館、茅ヶ崎 太陽の郷、南湖院、世界平和とアピール七人委員会、人間禅教団 榎木道場、群馬県立赤城公園、栃木県塩原温泉ビジターセンター、塩尻短歌館、目白不動尊 金乗院、東京国際女性映画週間、岩波ホール

奥村敦史、奥村綾子、築添晴生、宝井琴桜、中島直昆、臼井祥朗、三枝佐枝子、八木沢豊、阿久津勇、中村三佐男、相澤カヨ、古晒よね、タチアナダールグレン、山口美代子、岩尾光代、中島 空、牧野 萌、横山ひな、谷井澄子、聖山堂伊波商店、壺中居

資料提供＝大月書店、国立国会図書館、アメリカ議会図書館、アメリカ公文書館、東京大学史料編纂所、東京大学出版会、財団法人日本近代文学館、社団法人作楽会、婦人之友社、岩波書店、毎日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、NHKエンタープライズ21

製作＝青木生子/演出＝羽田澄子/撮影＝宗田喜久松/撮影協力＝西尾清、内藤雅行、相馬健司、山田達也、中尾正人、谷峰登、富山治夫、アンダース・ボーディル/録音＝滝澤修/録音協力＝栗林豊彦/美術＝星慧恵子/照明＝渡辺勝利/原簿編集＝加納宗子/コーディネーター＝藤井恵美、横山博子/音楽＝湯浅譲二/デザイン＝朝倉眞/語り＝喜多道枝/解説＝高橋美紀子/製作助手＝櫻井知之/演出助手＝佐渡京子/撮影助手＝木宮健彦、藤田恵太、IMAGICA、ヨコシネディ・アイエー、アオイスタジオ、島田プロダクション、クリブリ公演通りスタジオ、日活美術、ナック、アークシステムズ、シネオカメラ、東京ビデオカム

10月12日(土)～18日(金)、26日(土)～11月8日(金) モーニングショー! ★19日から25日は休映です。ご注意ください。

特別鑑賞券発売中! 一般 1400円

・当日/大学生 1400円 シニア・障害者・高校生以下の方は1000円(当日1700円の場合)
 ・完全入替制(本編開始後のご入場、及び場内のご飲食はご遠慮下さい。)
 ・4F劇場、ロビーは全面禁煙となります。ご協力下さい。

関連企画
 講演会「平塚らいてうの生きた道」講師/米田佐代子さん
 10月12日(土) 午後2時から 京都社会福祉会館 参加費500円
 問い合わせ先・新婦人府本部 ☎342-1552

朝日シネマ
 河原町三条上朝日会館4F TEL(255)6760
<http://www.cinemawork.jp>

協力/映画「平塚らいてうの生涯」をみる会(新日本婦人の会京都府本部、京都母親連絡会、京都市民主婦人連合会、国際婦人年京都連絡会)